



かがやけ！持松っ子

咲かそう！心に体に 自分の花を
《やさしさの花 かしこさの花 たくましさの花》



梅雨時の安全指導について

校長 後藤 豊仁

雨が降り続く時期になりました。この時期になると、担任として必ず話す出来事があります。話の内容については、以下の通りです。

今から50年以上前、私の父親が小学校の教員として離島の学校に赴任し、1年生の担任をしていた時のことです。

大雨が降り続いた後の下校時、受けもっていた子どもに、あってはならない不幸な出来事が起こってしまいました。

雨が上がったので、子どもたちはみんな傘を閉じて帰っていました。1人の男の子が、道に沿ってつくられていた排水路を見ると、水が勢いよく音を立てて流れていました。それがとても気に入り、何の気なしに持っていた傘を、流れている水に突っ込みました。傘から手を離せばよかったのですが、一瞬のことに、男の子は体ごと水路に引っ張られ、そのまま流されてしまいました。

一緒に下校していた数人の子どもたちが、すぐに学校に引き返し、友達が水路に流されたことを血相を変えて伝えました。

緊急の出来事に、学校や警察、地域の方々など大勢の方々が行動し、3日3晩探しましたがすぐには見つからなかったそうです。

多くの大人が、「これだけ探しても見つからないということは、どうにか陸にあがれたのではないか。生きているかもしれない。」と思い始めた矢先、川の下流も下流のあと少しで海に出る寸前のところで浮かんでいたところが見つかったそうです。

この話は、私が小学生だった頃、母親から聞き、私の心の中にずっと刻まれていました。

水は私たちにとって、命を維持するためになくてはならない物です。しかし、同時に津波や大雨

時の災害など、一瞬で命を奪う怖い物に豹変することを、絶対に忘れてはなりません。

この話では、流された子どもを救うために、大勢の大人がすぐに探したにも関わらず見つからなかったとありますが、それは、人の想像以上に川の流れは速いということです。

校区に川があり、用水路も多い本校区にも起こりうる、あってはならない事故です。例えば水深が浅く、膝くらいの高さで流れていても、勢いの付いた水流の場合、とても立ってはいられないくらいだそうです。

これから段々と暑さも増し、さらに水に触れる機会も多くなります。子どもたちには、水の楽しさと同時に、水は思っている以上に危険であるということを、私たち大人はしっかりと教えていかなければなりません。

～生活科・社会科見学～

5月17日（水）に、中津川小学校と合同で生活科（1・2年）社会科（3・4年）見学を実施しました。霧島市役所周辺にある建物を調べたり、施設の見学をしたりしながら学習を進めました。

ハンズマンで買い物体験をしたり、中津川小の友だちと仲良く城山公園でお弁当を食べたりすることができました。

歴史資料館では黒電話にびっくりでした！



ありがとうございました！

～ ふれあい緑化活動 ～

5月16日（火）は「ふれあい緑化活動」にご参加くださりありがとうございました。おかげで、学級園のマルチをきれいに張ることができ、プランター用の土もたくさん作ることができました。

子どもたちもこれまでの経験をもとに慣れた手つきで作業していました。

今後、苗が育ったら花を植え替えをし、夏にきれいな花をさかせていきたいと思います。

また今年をあわせて「人権の花」運動の開講式も行われました。人権の大切さを象徴する「ひまわり」も育てていきながら、人権に対する意識を高めていきたいです。



7月の行事予定

- 12日（水）授業参観（水泳大会）13:50～
PTA全体会・学級PTA（保護者）
- 13日（木）水辺の安全教室・移動図書
- 17日（月）⑧ 海の日
- 20日（木）終業式・大掃除 11:50児童下校